

## 平成28年度第1回京都市産業廃棄物3R推進会議 摘録

1 日 時 平成28年7月22日（金） 午後2時00分～3時45分

2 場 所 職員会館かもがわ 中会議室

3 出席委員 新井委員，石田委員，黒坂委員，郡嶋委員長，高岡副委員長，高木委員，  
高橋委員，檀野委員，渡辺委員

※ 上記委員の他，京都府環境部循環型社会推進課尾形課長がオブザーバーとして出席。

### 4 議事内容

#### (1) 平成27年度会議でいただいた御意見

資料3に基づいて事務局から説明があり，委員から特に発言はなかった。

#### (2) 平成28年度会議の予定

資料4に基づいて事務局から説明があり，委員から特に発言はなかった。

#### (3) 第3次京都市産業廃棄物処理指導計画の進捗状況

資料5及び6に基づいて事務局から説明があった後，次のような意見交換が行われた。

委 員：例えば間知石などは処分するところがなく，コンクリートが付着しているから「コンクリートくず」で処分しようか，というような運用になっている。

最近では豊能郡環境施設組合と神戸市のダイオキシン含有廃棄物の問題が報道されているが，この事例のように，解釈を間違えば大きな問題になることがある。行政指導に当たっては，このような問題が起こらないよう留意してほしい。

委 員：平成27年度のPCB掘り起こし調査について，どのようなことをしたのか。

事 務 局：平成27年度は，京都市役所が排出事業者となるPCB廃棄物について，各局  
区を訪問し，保管状況等の確認を含めて調査を行った。

委 員：資料5「評価・課題等」欄に記載されている「未把握の機器や使用中の機器への対応」は，市役所以外の事業者分ということでよいか。

事 務 局：そのとおりである。

委 員：JESCO北九州PCB処理事業所は，かなり早い段階で受入を停止するので，  
処理は急がなければならない。

事 務 局：PCB特措法改正により新たに規定された行政代執行については，財政負担・  
支援制度のあり方などが現在検討されている。環境省が基準としている北九州市  
の調査によれば，現在把握できている件数に対して，約10%程度の未把握機器  
があると推定している。京都で把握している事業場は約1,000箇所あり，約100  
箇所の未把握事業場があると想定されるが，実際はもっと多い可能性もある。

京都府とともに平成27年度に行ったPCB廃棄物掘り起こし調査に関する  
説明会では，排出事業者から200名もの参加をいただいております。事業者にとっ  
ても関心が高い問題である。

#### (4) 今後の本市における産業廃棄物に係る施策の方向性について

資料7に基づいて事務局から説明があった後、次のような意見交換が行われた。

委員：水銀関係で京都府医師会等への取組が報告されているが、具体的にはどのような内容か。

事務局：「医療機関に退蔵されている水銀血圧計等回収マニュアル」が平成28年3月に環境省から発行されている。適正処理だけでなく、コストも低く抑えることができることから、このマニュアルに基づき、京都府医師会等が窓口となって集団回収することとなるが、この取組の支援を京都府とともにやっている。

委員：先ほどの処理が難しいものにも当たるが、墓石が処理できる場所を探してほしい。

#### (5) 次回会議の日程

次回は平成28年11月頃の開催とし、改めて日程等を調整することとした。